

松山市発注工事(裏金疑惑) 調査特別委員会の廃止について

反対討論

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。

私は松山市発注工事に関する真相解明議員有志の会の一員として、日程第6、「松山市発注工事解明調査特別委員会の廃止」提案について反対の討論を行います。

本特別委員会は、昨年3月に発覚した松山市発注工事に絡む、裏金疑惑の解明を目的として発足したものです。が、今回の廃止提案は、疑惑解明を恐れる関係執行部の思惑に配慮したと思われる与党的立場の議員によって、本市発注工事の癒着の構図に切り込むどころか、疑惑解明の本丸に手をつけることなく、握り潰そうとするもので、主権者である市民を愚弄するものに他なりません。

今回の裏金疑惑は松山市発注工事を孫請け受注した元社長が「裏金を作らされて元市職員に渡し」という証言から発覚したもので、その証言内容を裏付ける事実が、元請け会社クボタの調査報告書からもうかがえます。

つまり今回の事件で、裏金作りを指図し、受け取った元市職員に対しその原資を支払った元請け会社のクボタと、裏金を直接手渡した、孫請け会社ASK元社長の証言は「一連の流れから一致しており、明らかに裏金が存在したことを証明しています。」

本市の説明する「元請け会社との契約書である表帳簿には出てこないから、工事代金の上乗せは無かった」という結論は「頭隠して尻隠さず」と言っしかありません。

また、裏金疑惑の矢面にある公営企業局管理者が、裏金の告発を行った元社長に対し、疑惑とは全く関係の無い前科を公表した事は、告発を行った、元社長証言の信びよう性に疑いを持たせるために行った卑劣な行為であり、人権意識の貧しさだけでなく、自らを律する力の無さをさらけ出したものと言えます。

市民の汗と涙で支払った市民の税金から、本市元職員が裏金を作りだしていたという痕跡がはつきりと残っているが、何が何でも無かったものにしてしまうとする関係執行部・与党的立場の議員の姿勢からも、この事件の根深さ、泥沼の様相であることを物語っています。今回、裏金疑惑の、表の中心人物といわれる元松山市職員が、一年経つてやっと、本市発注工事の元請け会社クボタと

の会食を認めたことで、裏金造りの経緯とクボタの報告書にある内容の客観性が、明らかとなったばかりです。

○裏の中心人物は誰なのか？

○最終的に裏金は誰に渡ったのか？

○何故、実績もない会社が短期間に常識を超える受注ができたのか。

今回の件は、ただ単に公金裏金疑惑のみならず、市役所全体の構造的な問題にまで発展しています。

淀みのない市政実現の為には、疑惑を塗りつぶすのではなく、どの角度から見ても純白だといえるまで追及する必要があるのではないのでしょうか。

また、現段階におきましては、孫請け会社ASKの元社長証言だけではなく、別の孫請け会社の元社長からも同じ元市職員に裏金を渡したとの証言も新たにできており、全容を解明する事が本市市議会の責務である事は言うまでもありません。

これからが、市民の信託を受けた議員の出番であり、市政への監視機能を発揮させてこそ議員の存在価値があると思います。

すべての議員の皆さんが、良心に従い全容解明に向けて一丸となる事を期待して、私の裏金疑惑解明調査特別委員会廃止案に対する反対の討論を終わります。

市議会に対する市民の皆さんの熱い注目を宜しく願います!! 以上

3月議会の報告

(あまりに残念な野志市政)

2012年3月予算議会が終了しました。

私を支援してくださっている皆様に言お詫びを申し上げます。それは私の「人を視る目」が未熟であった事の反省を意味しています。その人の名は現松山市長の野志さんです。個人の名前を出すのもどうかと思いますが、野志さんは既に市長という公人であり、その方の言動は私たちの生活に直接影響を与える立場にありますので、あえて曖昧にせず、お知らせしたいと思います。

勿論その判断は読者のみなさんでお願いします。

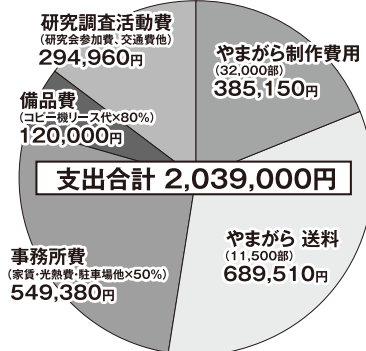
以下、野志さんが市長になられた時点で、「少なくとも民間のサラリーマンであった事と、プロの政治家ではない新鮮さと市民感覚の素人っぽさがあるのではないか」という期待感が私にはホンの少しだけありました。その理由は野志さんが市長になられた直後の年末の議会との懇談会での発言からです。その中身は「議員の皆さんには多様な意見があり、同じ意見で無いから議会が活性化して行くと考えており、全ての議員の皆さんとは、いつでもお会いして意見交換をさせていただけるようにしていますので、秘書課を通じてお願いします」「話せば理解、話さなければ誤解!」というのが私の基本姿勢です」という言葉を聞き、もしかしたら市民のための市長になる可能性があるのではないかと勘違いをした私が○○でした。未熟者です!!

何故なら、あれから一年半、私から毎月(毎回)市長との政策意見交換会を申し入れていますが、ただの10分も時間を作ることをしません。秘書課長曰く「何回来られても市長は会わないと思います…」という返事の繰り返しです。仕方ないのでこの事実を一般質問で行ったところ「会う気はないのではなく、時間がないという事です…」とのふざけた答弁を市長自身がするのではなく、総務部長にさせる不甲斐なさです。議員の質問や、意見から逃げ回る市長の姿が情けなくなりました。

〈梶原時義の2011年度政務調査費収支報告〉

(2011年4月～2012年3月まで)

〈支出〉



〈収入〉

政務調査費 1,224,000円
歳費より 815,000円

収入合計 2,039,000円

※議員の活動について政務調査活動と一般的な議員活動を区別することが困難であるという規程から、一部50%～80%の按分としています。
※携帯電話代、ガソリン代等は計上していません。(自己負担しています。)

祝 食場～平井線(小野3号線) 開通

伊台・湯山～平井・森松地区の皆さん待望の松山市道・食場～平井線が3月30日(金)開通しました。

末町の交差点から国道11号線平井方面まで10分程度で行ける環境になり、利便性ととも生活の幅が更に広くなることは間違いありません。開通後は交通量増大による渋滞や交通事故対策の具体化も急がれますが、とりあえず、関係地区住民の生活に大きく寄与するものと確信して素直に喜ぶたいと思います。

※何かお気付きの事がありましたら、ご連絡ください。

梶原ときよしの活動予定や市議会のスケジュールはHPでご確認いただけます。

ホームページ

梶原ときよし

検索

<http://tokiyoshi.sakura.ne.jp>

「スケジュール」に行動予定と感想を入れていますのでクリックしてください。

梶原ときよし事務所

〒790-0813 松山市萱町2丁目1-2
TEL 089-947-2258 FAX 089-947-2259
携帯 080-5669-8586

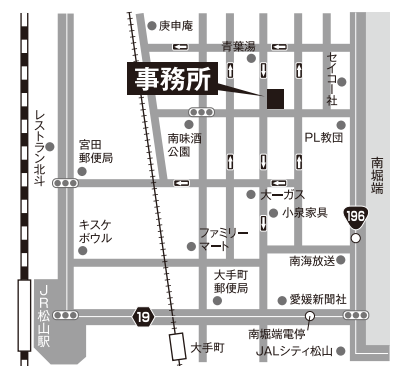
自宅/松山市湯の山4丁目1-5
TEL/FAX/977-8586
E-mail sizenha-812@lib.e-catv.ne.jp

●午後1時～午後5時まで
●土・日・祝日はお休みです。



あります。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



やまがら

やまがら



毎年、冬には自宅に来てくれます。



命を大切にする松山市政へ転換を!!

- すべての原発を廃炉にして、みんなの安心未来を築こう!!
- 子育て・教育・医療の市民負担を減らし、幸せに生きる権利と自由を守ろう!!
- 電車、バス、フェリーのシルバーバスを実施して、元気な高齢者が活躍するまちにしよう!!



発行・梶原ときよし事務所

議会公質問

3月議会一般質問より抜粋

2012年3月8日



ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。

昨年3月11日に起きた東日本大震災と福島第一原発事故は、

改めて私たちが地震列島の上に生き、

危険な原発と隣り合わせに暮らしている事を

突きつけました。また同時に、

国や住民の生活に直結する地方自治体の

役割は何なのかを問うものでもありました。

私は学生のころから平和と人権 命を守る

運動に携り、一昨年の市議選でも原発事故の

危険性を訴えて来ましたが、

「私たち市民の幸せに生きる

権利と自由」を

守るためには、

社会の体制を

論じる以前の

問題として先ずは、

原発の無い世の中に

する事が必要ではないでしょうか。



ここに、福島原発事故の一番の被害者である子どもたちの「心の訴え」を載せた「福島の子も達からの手紙」という本がありますので一部を紹介いたします。



福島市小学五年生の海斗くん。

外で遊びたい。

きれいな空気がほしい。

なんで原発をこんなにたくさん作ったのですか。

死にたくないです。

友達とはなれるのがいやです。

5年生の萌さんは

私は何才まで生ざられますか。

私の夢は去年と全くちがいます。

平和な国にもどつてほしいです。

長生きしたいです。

もう、地震の国、日本で原発をなくしてほしいです。みんなが自然の笑顔で、みんなを元気にしたいです。放射線がなくなつて、外で犬を飼いたいです。

その他にも、

もうマスクをしたくない。

プールにはいつ入れますか？

もうマスクをしたくない。

プールにはいつ入れますか？

◆原子力防災対策について（市民はどこに逃げればいいのか）

◆南海地震による津波対策（海拔表示標識を設置すべきでは）

◆続発する職員不祥事（市長は以後逮捕者を出さない自信はあるか）

◆政策提言懇談会の開催（市長は全議員と意見交換すべきでは）

② 南海地震による津波対策について
次に南海地震による津波対策についてお聞きします。

その一つは、南海地震によつて本市が受ける津波の高さは何メートルと予測しているのか。

また津波対策や液状化対策のハザードマップはできているのかを含め市民の命を守る具体策とこれからの計画をお示ください。

また本市は、東日本大震災を受け昨年11月、災害対策の緊急性にかんがみ危機管理担当部を設置しました。しかしながら市民の目に見える対策が未だに実行されていないのが現実です。



そこで本日、私が建設的な提案を致しますので、よく聞いて御所見をください。南海地震の発生により、本市に押し寄せて来る津波の大きさを2.5メートル～5メートルと

想定した上で、海拔5メートル以下の地域の建物や電柱に、海拔表示標識を設置して、市民の津波対策の指針と防災意識の向上に役立てるべきだと考えます。

今、真つ先に行つべき具体策として2012年度予算に海拔表示標識の設置費を計上すべきと思いますが予算計上を行うのか一行わないのか、明確な答弁を求めます。

危機管理担当部長答弁

現在、本市は、福島のような事態にならないための具体策や、市民生活などへの影響、住民避難についても、現時点では、特段の想定や対策は定めておりません。また、伊方原発で事故が起きた場合、放射性物質が何時間で本市に到着するかにつきましては、本市は伊方原発の北東に位置しており、放射性物質は、到着しないものと思われまます。また、海拔標識設置費について来年度予算に計上しておりません。

③ 続発する職員不祥事について

次に続発する職員の不祥事について、市長にお尋ねします。

放射能はいつなくなるの？

僕は大人になりますか。

福島に帰りたい！

みんなを助けてあげたいです。

福島の友達を早く県外に逃がしてください！

これらは、福島から避難した子どもとどまつている子ども、親や友達と引き裂かれた子ども達の、切実な心の叫びです。

私が申し上げたいのは、今、読みあげました「福島の子も達からの手紙」は、ひとたび、南海地震が起きれば、同時に、愛媛・松山の子も達の叫びとなるという事です！野志市長、それでもなおあなたは、原発を容認しますか。お国の為に、経済の為に、お金の為に、子ども達の未来を天秤にかけますか。命よりもお金が大事ですか？！

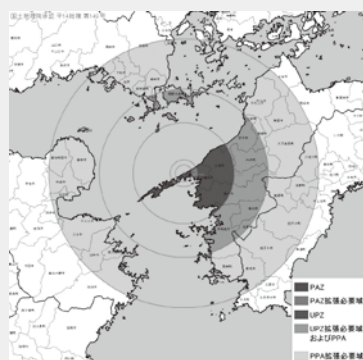
私たち市民は、そんな市長を選んで覚えはありません！！

そこで、まず第一に原子力防災対策について質問します。

① 原子力防災対策について
本市が第二の福島にならないようにする為には、どうすれば良いか。その考え、並びにベストな具体策をお答え下さい。それと、近く予想される南海地震が起きて、伊方原発が、福島原発事故と同規模の事故となった場合、本市市民の生活にどのような影響を与えると考えていますか。①農林業②水産業③観光業

最後に政策提言懇談会の開催についてお尋ねします。
西条市議会では、二元代表制の地方自治をより具体的に実行するために、全議員と民主的な会派別政策提言懇談会が行われています。これは、定例本議会前に市長や市政執行部が議員各会派からの多種多様の政策提言を受けて、市民総意の政策実現や苦情の解決を、具体的に実現して行こうとする知恵の表れでもあります。

ところが本市におきましては、驚く事に、本議会を除けば、市長に対する政策提言の機会は、野志さんの選挙を応援した与党議員にしか与えられておらず、全く不自然、不透明なものになっています。
野党的立場の議員提案を採用するかしないかは市長判断の裁量に任せるしかありませんが、



④ 子ども達の生活⑤市民の生活と、五つに分けてそれぞれ説明をしてください。
また、常時4メートルの南風が吹いているといわれる伊方原発上空から、放射性物質は、何時間で松山に到達すると考えているのか。その際、市民はどこに逃げればいいのかを教えてください。

さらに、御用学者ではない多くの科学者が、近い将来、日本全国どこで大地震が起こるか判らない上、大地震が起これば日本の原発は必ず爆発事故を起こす！と警告している事について、以下3点をお聞きします。

一つは、今、国の原子力防災対策工事が拡大している時、不思議な事に、伊方原発から僅か5～60キロに位置する本市が、原子力防災対策を取らないのは何故なのか。

危機管理担当部に伊方原発に対する危機感はあるのか。もし危機感があるとすれば、どこに表現されているのか。ご答弁下さい。

あまりに情けない感情的な市政運営は改めていただきたいと思えます。
今後は本市におきましても市政の課題把握と政策立案が容易に出来る環境を整え、全議員の政策形成能力を向上させるためにも、全会派と執行部の政策提言懇談会を行うべきだと考えますが市長の見解を求めます。

市長答弁

政策提言懇談会の開催については、これまでの取組みを行う中で、適切に対応してまいりたいと考えております。（政策提言懇談会は行わないという答弁。）

